

イチモンジチョウの項で、1964年頃、比叡山の登山口となる修学院音羽谷がイチモンジチョウとアサマイチモンジとの混棲地となっていたことを述べたが、今はどんな状況なのだろうか。

一般的にイチモンジチョウにくらべてアサマイチモンジはその生息分布が狭く、北海道、四国、九州ではみることができない。筆者の郷里、高知市でもごく限られたところにしかない珍しいチョウという位置づけであったが、兵庫県播磨地区は、むしろアサマイチモンジの方が多くみられる稀有な地域のようなのである。幼虫の食草はイチモンジチョウと同じスイカズラで、5月から6月にかけてきれいな薄黄色の花を咲き誇らせ、アサマイチモンジの母蝶が産卵のためにその周辺



を飛び交う光景が楽しめる。母蝶はスイカズラ若葉の裏側に産卵することが多いようだが、左図のように葉表に産卵することも少なくない。孵化した幼虫は、若葉の先端部から食べ始め、インガケチョウやスミナガシの幼虫にみられる独特の糞塔を形成して枯れしおれた葉っぱをカーテン状にぶらさげ、葉脈の先端から糸状にのびた擬似葉脈にそっと静止して自身をその細糸と一体化するか、あるいはカーテンの陰に身を隠す。これらの習性は小鳥やハチなどの外敵に対するみごとなカムフラージュであるが、この習性を知る人間にとっては幼虫発見の格

好の目印となる。

近似種のイチモンジチョウとは野外で飛翔している姿をみるだけでは区別がきわめてむずかしく、右図のように静止した状態であれば、後翅上から4番目の白紋内側にある黒い2本の線状模様がV字を呈していればアサマイチモンジだと判定できる（イチモンジチョウでは平行線：下の標本裏面を参照）。また、羽を広げてくれている場合、標本図の前翅に着目して、下から2,3番目の白紋を直線で結んだ延長線が下の白紋の外＝右前翅なら右側を通り、イチモンジチョウでは内＝右前翅なら左側へとぐんと斜めに角度がついた延長線となることで、明確に区別ができる（参考のためイチモンジチョウ標本も示す）。

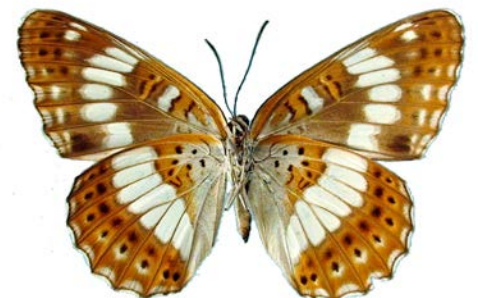


2009年5月下旬から6月上旬にかけては、播磨地区における絶滅危惧種I類指定ヒメヒカゲの生息調査で忙しいが、そのあいまにアサマイチモンジが複数頭、スイカズラの花が咲くまわりをスイスイとみごとな滑空をみせてくれるのが、眼の保養となる。1頭の♀を2頭の♂が追いかけて始めて展開される、3頭によるスクランブル飛行はなかなか見ごたえのある光景である。

和名は最初に発見されたのが浅間山周辺だったことからつけられたものと思うが、**世界で日本の本州にしかない特産種**であるだけに、大切にしたいチョウである。



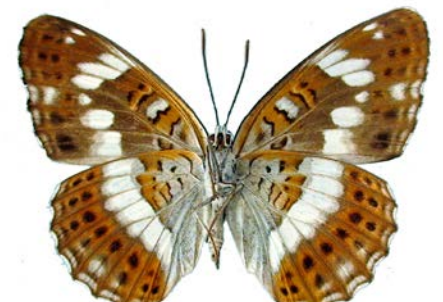
Aug.5,1962 長野下諏訪
アサマイチモンジ ♀



裏面



July 4,1982 兵庫砥峰登山道
イチモンジチョウ ♀



裏面

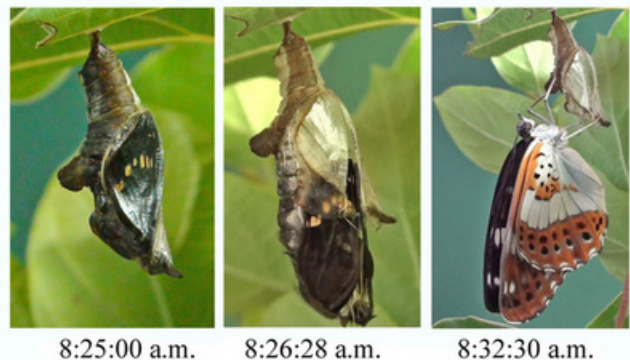
June 24, 2009 アサマイチモンジ羽化

アサマイチモンジの蛹化、羽化の記録。蛹は次第に硬化するにつれて背部の小紋がみごとな金色の輝きを放つようになる。ツマグロヒョウモンやルリタテハにも見られるこの金色はいったいどのような成分から成り立つのか、沖縄や八重山ではオオゴマダラ、ヤエヤマイチモンジのように蛹全体が金色に輝く種類もあり、自然界の不思議は山とある。ヒメヒカゲは蛹から体が出るまでにわずか30秒だったがアサマイチモンジでは1分30秒を要した。逆に羽がのびきるまでの時間はヒメヒカゲで約10分、アサマイチモンジでは7分ていどで完結した。チョウの種類によって蛹の大きさから想像する以外の要因がありそう。なお、ヒメヒカゲ母蝶は6月24日現在20卵を産んでまだ生きている。羽化から18日目だ。

アサマイチモンジの蛹化

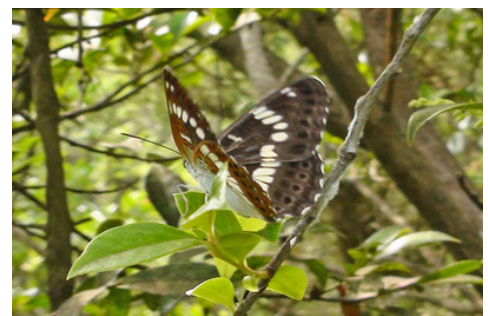


アサマイチモンジの羽化 June 22, 2009



June 26, 2009 アサマイチモンジ：ふるさとへ 第一章

アサマイチモンジの雌雄が続けて(♀は6/22朝8時半、♂は本日早朝5時半に)羽化したところで、卵の段階で野外から持ち帰った元の発生地にもどしに出かける。ふるさとを覚えているとは思わないが、時刻が朝9時半で気温は十分高い時間帯なのに一気に飛び去ることもなく近くの木の葉上で休憩してくれる♀の雄姿をじっくりと撮影記録。



July 7, 2009 アサマイチモンジ：ふるさとへ 第二章

初令幼虫の段階でアシナガバチ攻撃を回避するために自宅に持ち帰ったアサマイチモンジが、7月5(♂),6(♂),7日(♀)と3日続けて羽化したところで、まとめて元のスイカズラが茂る林縁へと戻すために自転車を踏む。7月3日に新たなルートで40分に更新した所要時間を本日はさらに35分に短縮更新して9:20現地到着。一時も早くふるさとで飛ばしてやろうという心意気で行程のほとんどを最速モードで走った結果だ。まず早く羽化した♂から放すが、いずれもいったん当方の汗をかいた腕にとまって躊躇の気配をみせてから静かに近くのスイカズラ

July 7, 2009 アサマイチモンジの求愛行動



などの葉上に移動するから嬉しくなる。今朝生まれたばかりの♀はじゅうぶん羽が固まっていな
いのかすぐに路面に落ちるので、そっと指にとまらせて近くの葉っぱ上に移してやる。やっと落
ち着いてくれたかと思うまもなく、放したばかりの♂
のうちの1頭がいきなり求愛にやってくる。早く羽化
した方でもまだ3日目なのに精子は十分受精能があ
るのだろうか。何度かまわりを飛んでみせ、やがてお
尻をまげて迫り、なんなく交尾成立。雨雲が迫ってき
たため1時間以上の観察はあきらめたが、交尾時間は
けっこう長いようだ。せっかくだから今朝4時過ぎか
ら待機して、完璧にビデオ記録がとれた♀の羽化経緯
も示しておこう。

